

令和6年3月1日発行

大河原農業改良普及センターだより

麦わらぼうし



【撮影地:仙台市 令和5年12月18日】

果樹産地の維持・発展に向けた若手果樹生産者を中心としたネットワーク構築

普及センターでは、管内の若手果樹生産者の技術向上支援の一環として、せんだ研修会を開催しています。せんだの他、病害虫防除、販売活動支援（イベント出展）を通じ、樹種を越えた交互交流が生じる事を目標に若手果樹生産者のサポートをしています。

思いを形に、あなたのチャレンジ支えます、応援します。宮城の農業普及。



プロジェクト課題の成果

地域農業の維持・発展に向けた地域計画の作成と実践

村田町菅生地区では、守り続けてきた農地を次の世代に着実に引き継いでいくため、昨年度より将来の農地利用の姿を明確化する「地域計画」の協議を行っています。8月に全ての地権者を対象とした意向調査を行ったところ、将来の耕作者が定まっていない農地が多くあったことから、12月に担い手13名が集まり地区の農地利用について話し合いました。

現状では、担い手が請け負える面積が限界であることから、ほ場交換等による農地の集約について意見を出し合いました。普及センターからは、他地区の事例や法人化等の助言を行いました。今後、話し合いの結果を地図に反映し、地区内で更に検討する予定です。



【農地利用についての話し合いの様子】

地域特産とうもろこし、そらまめの生産振興による直売所の販売額拡大

村田町では、とうもろこしとそらまめの生産が盛んに行われ、道の駅「村田」の直売所では毎年イベントが行われる等、地域特産品として親しまれています。

その需要に応えられるよう生産量の増加を図るため、普及センターでは、町や道の駅等と連携し、生産振興に取り組んでいます。道の駅直売所の生産出荷団体「村田ファームズ」を対象に、生産技術の改善や品質の向上、新規作付け誘導等の支援を行ってきました。直売所の売り上げは前年度と比較し、とうもろこしで150%、そらまめで116%と増加しています。

今後も村田町におけるとうもろこしとそらまめのさらなる生産量増加に向けて、引き続き支援をしてまいります。



【そらまめ現地検討会の様子】

果樹産地の維持・発展に向けた若手果樹生産者を中心としたネットワーク構築

令和5年度は、管内の若手果樹生産者を対象に、研修会を5回、イベント出展を2回行いました。

研修会では、農機具メーカー、農薬会社や試験場職員を講師に招き、普段使用している機械の基本、注意する病害虫、防除方法を学びました。

出展活動では、対象者同士の交流を深めるとともに、消費者との交流を兼ねた販売活動を行いました。対象者からは、「より詳しく学びたい」、「まとめて販売活動をしたい」といった前向きな感想が出ました。

引き続き若手果樹生産者にとって実りのある活動となるよう支援してまいります。



【研修会の様子】

仙南たまねぎの環境に配慮した栽培方法による生産拡大

大河原管内では、水田を活用した高収益作物としてたまねぎの導入を進めています。

令和4年度からは、「仙南たまねぎ生産推進協議会」を設立し、「環境にやさしい栽培技術」と「省力化に資する技術」を組み合わせた「グリーンな栽培体系」の実証を始めました。



令和5年度は、ドローン農薬防除による作業効率化や、リビングマルチ及び生分解性マルチを利用した栽培でのネギアザミウマ抑制効果などが現地で確認できました。

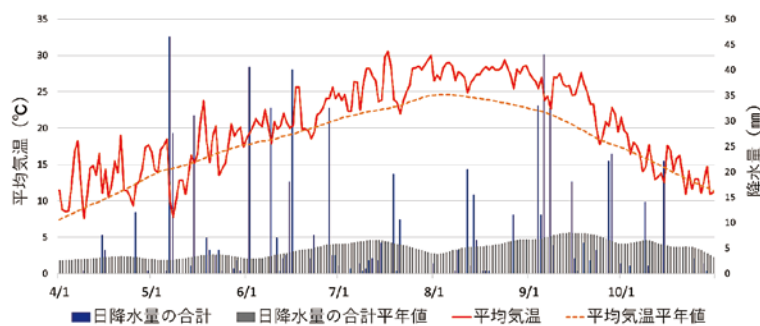
現地実証では新たに判明した改善点を見直しながら「環境に配慮した栽培体系」に取り組むとともに、引き続きたまねぎの収量・品質向上、生産拡大に向けて支援を行ってまいります。

特集 令和5年度の水稲作柄について

去年は、移植後から収穫時期まで高温・多照傾向で推移し、特に8月～9月は日平均気温が平年より約4℃も高く推移しました。水稲は出穂後20日間の平均気温が高くなるほど白未熟粒が発生し易くなり、品質の低下に繋がります。

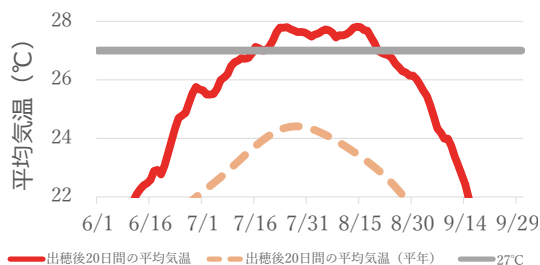
特に、登熟期間中の高温の影響により、県全体で水稲の品質が低下し、1等米比率は県全体で82.9%（令和5年11月30日現在）となりました。

気象経過（4/1～10/31）



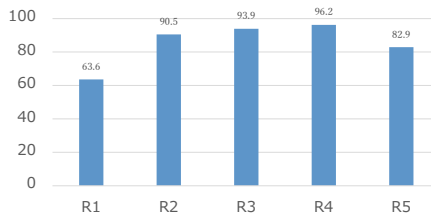
【気象経過（丸森アメダス）】

出穂後20日間の平均気温



【出穂後20日間の平均気温（丸森アメダス）】

1等米比率（%）



（令和5年10月31日現在）※過去年度は各年同期の値。（東北農政局令和5年12月1日公表）

【宮城県のうるち玄米1等米比率】

次年度の良品質米生産に向けた技術対策としては、堆肥や土づくり肥料の施用、晩期栽培と晩生品種・直播栽培の導入、適正な追肥等が挙げられます。また、出穂後の高温が予想される場合は、かけ流しかんがいや飽水管理等の水管理対策も有効となります。さらに、斑点米カメムシ防除を中心とした病害虫防除も徹底し、できる限りの対策を実践することで、上位等級米を生産して収入の安定と向上を目指しましょう。

話題

発酵粗飼料用稲「リーフスター」展示ほの収穫を行いました

今年度から、地域における自給粗飼料の確保に向け、発酵粗飼料用稲（品種：リーフスター）の実証展示ほを蔵王町に設置し、10月に収穫調査及び稲WCS（ホールクロップサイレージ）の刈取作業を行いました。気温が高温で推移し、また、台風が無かったことで、坪刈調査では、総生草重で目標の3.5 t / 10aを越える約4.0 t / 10aとなりました。刈取作業では、裁断長を2～3 cmと短くすることができるデントコーン刈取専用機械を転用し、展示ほから直径100cmのロールを11.6個/10a（サンプル実測値：343kg / 個）収穫できました。



【稲WCS収穫の様子】

引き続き、飼料価格高騰の解決策として、稲WCS等の栽培支援に努めて参ります。

宮城県農林産物品評会（うるち玄米部門）・花き品評会 受賞者一覧

令和5年10月に農林産物品評会（うるち玄米部門）と花き品評会の審査が行われ、管内では、下記の方々が入賞されました。おめでとうございます！

農林産物品評会（うるち玄米部門）

受賞名・順位	入賞者	品種
農林水産大臣賞・一席	農事組合法人 北向結ファーム	つや姫
知事賞三等・九席	//	ひとめぼれ

花き品評会

受賞名・順位	入賞者 ※敬称略	品目
金賞・三席	柴田町 平間 誠	スプレーぎく
// ・六席	川崎町 佐藤 由喜	ポットマム



【左から「つや姫」、スプレーぎく、ポットマム】

エコファーム蔵王(株)が第7代「ささ王」を獲得しました



大崎の米『ささ結』ブランドコンソーシアムと大崎市が主催する第7回全国ササニシキ系『ささ王』決定戦が開催され、全国から72名の農業者から83点が出品されました。11月上旬に行われた分析機器による一次審査で上位10点が選定され、11月22日に最終審査（米の食味専門家による食味官能審査）が行われました。その結果、蔵王町のエコファーム蔵王株式会社が栄えある第7代『ささ王』に輝きました。

【エコファーム蔵王 村上代表】ササニシキ生誕60周年あたる節目の年に栄冠を獲得されたことに敬意を表するとともに、益々のご発展をご祈念申し上げます。

発行：宮城県大河原農業改良普及センター

〒989-1243 宮城県柴田郡大河原町字南129番1号(宮城県大河原合同庁舎内)
 電話 0224-53-3519 FAX 0224-53-3138
 e-mail oknokai@pref.miyagi.lg.jp
 H P https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ok-nokai/

